

F L A F L A
F L A N E U R



萩原朔太郎生誕**140**年記念展

ふらふらふらぬーる 朔太郎の呑険な散歩

2026.6.13sat — 9.6sun

会場：前橋文学館 2階企画展示室 開館時間：9時 - 17時（入館は30分前まで）休館日：水曜日
観覧料：一般700円 *朔太郎展示室もご覧いただけます *高校生以下無料 *障害者手帳等をお持ちの方とその介助者1名無料
観覧無料日：6月13日（土）展覧会初日、7月10日（金）～12日（日）前橋七夕まつり、9月3日（木）開館記念日
監修：安智史 協力：前橋刑務所、前橋市中央児童遊園のなばあく、敷島公園門倉テクノばら園



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

展覧会案内サイト



世は空前の散歩ブーム。日本近代詩の礎を築いた萩原朔太郎（1886～1942年）もまた、散歩好きだったことをご存知ですか？

「戸外の散歩生活ばかりをする私は、生れつき浮浪人のルンペン性があるのか知れない。

しかし実際は、一人で自由にゐることを愛するところの、私の孤独癖がさせるのである。

なぜなら人は、戸外にゐる時だけが実際に自由であるから。」とその魅力をエッセイ「秋と散歩」

（『廊下と室房』1936（昭和11）年5月 第一書房）のなかで綴っています。

散歩にまつわる作品も多く、詩人にとって“歩くこと”は

自己と社会との関わりを捉え直すために必要不可欠な創作行為だったのでしょうか。

朔太郎が敬愛する19世紀のフランス詩人ボードレーは、あてもなくパリの街を歩きまわり

思索と詩作に耽った遊歩者（＝フラヌール）でした。近代都市へと変わりゆく風景や

道行く人々を冷徹かつ抒情的に見つめ、独自の感性で詩へと昇華させた朔太郎もまさに

フラヌール詩人と言えるかもしれません。

生誕140年にあたる本年、“散歩”を手がかりに朔太郎の詩的インスピレーションの源泉に迫ります。

展示は「Ⅰ故郷を歩くー前橋編」「Ⅱ都会を歩くー東京編」の2部構成。

郷里での追われるような彷徨と、後半生を過ごした都会での気ままな散歩ー

朔太郎の散歩が持つ二面性を直筆原稿や書籍、雑誌、写真、愛用品など

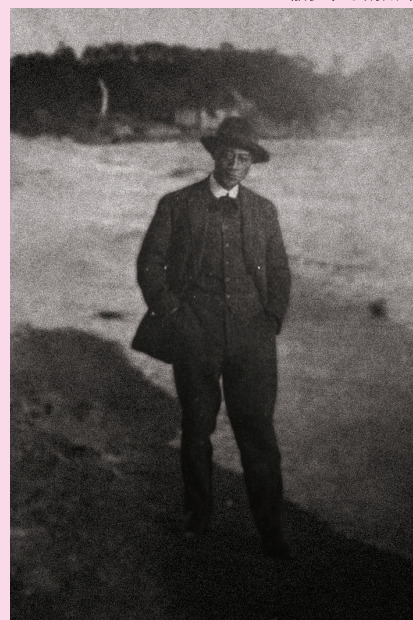
多彩な資料を通して浮かび上げます。前橋と東京の「朔太郎ゆかりの地」を

イラスト化したオリジナルマップも本展の見どころの一つ。

郊外や雑踏をふらふら彷徨いながら紡いだ詩の世界観とは、

一体どのようなものだったのでしょうか？ 孤独で自由で“危険”な朔太郎の散歩を

ぜひ、会場で体感して下さい。



「危険な散歩」より

「月に吠える」（一九二七（大正一六年）二月 感情詩社・白日社）所収

おれはぜつたいぜつめいだ、
おれは病気の風船のりみたいに、
いつも憔悴した方角で、
ふらふらふらあるいてゐるのだ。



F L A N U R
L A F L A F L A
N E U R

関連イベント情報

講演会
「散歩と創作
一敷島公園から」

日時	7月18日（土）14:00～
会場	前橋文学館3階ホール
定員	先着100名（要予約）
講師	中山庸子（エッセイスト・イラストレーター）
参加費	当日有効の観覧券（700円）が必要（高校生以下観覧無料）
申込	5月18日（月）9:00より電話受付（前橋文学館 TEL027-235-8011）

中山庸子（なかやまようこ）
エッセイスト・イラストレーター

1953年前橋生まれ。女子美術大学、セツ・モードセミナー卒業。群馬県立の女子高校の美術教師を15年間務めた後、37歳で退職。長年の夢だったイラストレーターとしての活動を始める。42歳で、自身の夢を叶えてきた経験を綴った『「夢ノート」のつくりかた』（大和出版）を上梓。以来、エッセイストとしても活躍中。著書に各年版「書き込み式 新いいこと日記」（原書房）、「新しい自分に出会える「散歩」ノート」（ホーム社）など。最新刊は「ポジティブの神様 宇野千代100の言葉」（三笠書房）。

ワークショップ
「スタンプ
ぺったん
お散歩
バッグ
を作ろう」

日時	8月1日（土）10:00～／13:30～
会場	前橋文学館3階ホール
定員	各回先着15名（要予約）
講師	寺澤由樹（グラフィックデザイナー）
参加費	材料費500円＋当日有効の観覧券（700円）が必要（高校生以下観覧無料） ※制作したバッグはお持ち帰りいただけます。
申込	6月13日（土）9:00より電話受付（前橋文学館 TEL027-235-8011）
協力	寺澤事務所・工房、有限会社清水製函



キーワードラリー

展示期間中、「キーワードラリー」を実施します。当館でラリー台紙を入手し、ラリーポイント（前橋刑務所、前橋市中央児童遊園のなばあく、敷島公園門倉テクノばら園、前橋文学館）を巡り、掲示物に記載された「文字（キーワード）」を集めると、オリジナルグッズをプレゼント！

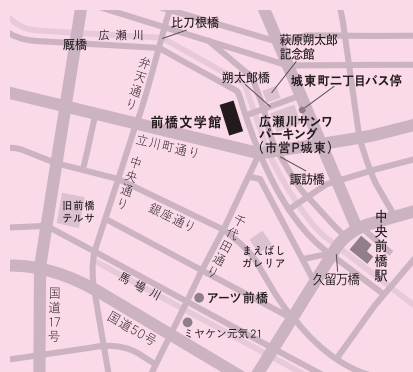
担当学芸員によるギャラリーガイド 6月27日（土）14時～ 予約不要



同時開催
●前橋文学館「音楽する写真 萩原朔美の前橋10年」 2026年5月30日（土）～2027年1月24日（日）
●アーツ前橋「ぬけみち展 かわす・つくる・ともにいる一生涯のための回路」 2026年7月4日（土）～8月30日（日）会場＝アーツ前橋 TEL.027-230-1144



グラフィックデザイン 寺澤由樹



アクセス

電車 JR 前橋駅北口から徒歩約15分 / タクシーで約10分
上毛電鉄中央前橋駅から徒歩約5分

バス JR 前橋駅北口バスのりば
・3番のりばから「中央前橋駅」行き（シャトルバス）
「中央前橋駅」下車徒歩約5分
・6番のりばから「荻窪公園・嶺公園」行き
「城東町二丁目バス停」下車徒歩約5分

自動車 関越自動車道 前橋ICから車で約15分
※広瀬川サンワパーキング（市営P城東）をご利用の際は、
駐車券に割引処理をいたします。



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目12-10
TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512
https://www.maebashibungakukan.jp